

神聖なる師に魅了される瞬間

60年間近く敬虔で信心深い帰依者であった、タミルナードゥ州出身のラニ スップラマニアム女史（訳注：2012年12月1日逝去）が、バガヴァン ババ様のもとを訪れたのは、早くも1950年のことでした。現在85歳で（2008年4月時点）、バガヴァンは親しみを込めて彼女のことを「ラニ マー」と呼ばれていました。彼女の人生は、往年のきらめく体験の宝石箱でした。真摯な霊性求道者である彼女は、現在、プッタパルティに在住し、深い信念、洞察力、そして信仰心を持つ熱心な帰依者たちのために、彼女を高めた数々の思い出を分かち合ってくださいています。これは彼女の素晴らしい回想録の第7部です。第1部～第6部を読まれる方は、下記をクリックして下さい。

[「ゴッドマザーに捧げる頌歌」](#)

[第1部](#) [第2部](#) [第3部](#) [第4部](#) [第5部](#) [第6部](#)

ラニ マー女史へのインタビューより

第7部



何年も前のある日、スワミは私たち全員にアムリタ（神聖甘露）をお配りになりました。アムリタの意義について、具体的にスワミがおっしゃたことは思い出せません。ただそれを私たちが授かったことは、非常に幸運なことだとおっしゃいました。今、過去を思い起こしますと、私が理解したことは、私たちは常に身体意識のレベルで活動しているということです。「私は考える」「私は行う」「私は聞く」等々です。

スワミは何をなさろうとしているのでしょうか？ 私たちの心（意識）から身体意識を取り除き、アートマ スワルーパ（私たちの真の姿、即ち真我）を私たちに明らかにしようとなさっています。アムリタ（神聖甘露）は非常に重要なメッセージなのです。頻繁に吟唱される祈りがあります。「ムルッティヨールマー アムルタム ガマヤ」（「死を越え

て不滅へと導きたまえ)。

死は身体に限定されるものであり、魂に死はありません。スワミは私たちの身体意識を一掃し、私たちに、私たちのアートマ スワルーパ (真の姿、真我) を明らかにするために来られました。アートマとは何でしょうか? それ (アートマ) にはルーパ (姿) はありませんが、無限のパワー (力) として身体に内在しています。だからこそ、スワミはおっしゃるのです。

「あなたの内にはすべてのパワーが宿っています。あなたは不滅なのです! それゆえ、どこに恐れや心配の余地などあるのでしょうか?」と。

私たち姉妹 (ラニ マーとその姉妹たち) は皆、誠に祝福されています! 私たちは健康や富のような物質的な事柄をお願いするためにスワミのもとに来たのではありません。霊的な道を歩む上での助けのみを望んで来ました。その目的だけのために来たのです。スワミ自らが、私たちに健康上の身体的な問題があるのなら言いなさいと、何度も問いかけてくださいました。しかし、私たちの方からこのような (健康上の身体的な問題についての) 話を始めたことは決してありませんでした。

無知を至福に変容させること!

スワミのご指示に従い、コダイカナル (スワミがかつて盛夏を過ごしていた南インドの高原避暑地) を訪れた際、友人のサロージャが私たちと共に滞在していました。彼女は毎日スワミのダルシャンから戻るたびに、慰めようもないほど泣いていました。私たちがなぜ泣いているのか訳を尋ねると、サロージャは言いました。

「スワミはずっと私のことを無視なさいます。スワミは決して私を見てくださることも、話しかけてくださることもありません」

このような (毎日ダルシャン後に泣いていた) ことが数日続いた後、彼女はその苦悩の原因を私たちの何人かに打ち明けてくれたのです。スワミは彼女自身の善のためにそうなさいること、彼女はそれを受け入れることを学ばなくてはならないことを、私たちは可能な限りサロージャに説明しました。しかしサロージャは納得せず、スワミのなさること (振る舞い) の背後には深い意味があるに違いないと感じていました。

解決策がなくなったため、私たちは正しい説明をサロージャに与えてくださるようにスワミに熱心に祈りました。その祈りは応えられ、私はある夢を見ました。その夢の中でスワミはおっしゃいました。

「このメッセージをサロージャに伝えなさい。私は彼女が泣いているのを知っています。これは彼女を慰めるでしょう。一家の家長が客を招く際、彼 (家長) は家族の者たちに関心を向けるのでしょうか? あるいは客に関心を向けるのでしょうか? 私に親密な者、私の家族は、決して私が無視しているなどと考えるべきではありません! あなた方

はゴーパー（クリシュナに熱烈に帰依したプリンダーヴァンの牧女）のようなものです。あなた方は私（スワミ）のために生きています。スワミを喜ばせるには何をすべきかを常に考えながら生きています。あなた方は家族なのです！」

朝、目覚めて私がサロージャにこのことを伝えると、彼女は大喜びしました。

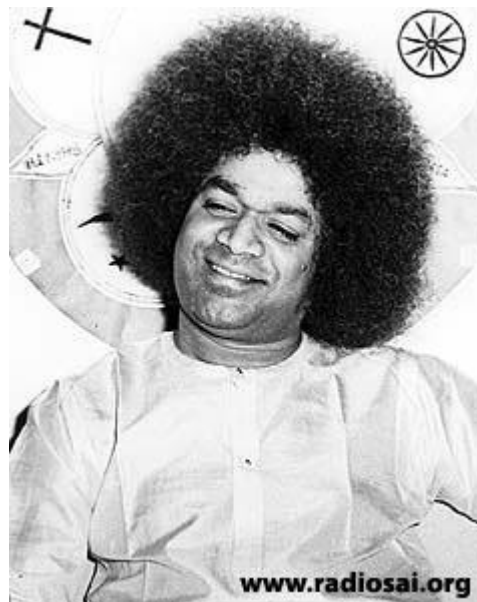
先日のご講話中に、スワミはおっしゃいました。

「古い帰依者は何も期待せず、喜んで新しい帰依者に場所を譲りなさい。新しい帰依者はスワミによって教育され、導かれる機会を得るべきです」

スワミは個人的に、私にも同様のことをおっしゃいました。

「ラニマー、あなたは非常に多くのことを受け取りました！ これ以上何が欲しいのですか？ 新しい者たちに場所を譲りなさい！ 満足し、幸せでいなさい。他人を羨んではなりません。彼らには私の導きが必要なのです。あなたは既にそれ（導き）を受け取っています。今、あなたはそれを生きなければなりません！」

私が最後にスワミのインタビューを受けたのは1984年のことです！



更なる自己修養、更なる恩寵

それは、スワミがおっしゃった他のことにも関連しています。

「私が最初に話したことを実践しないなら、私はあなたを無視するでしょう」

これは学校に通っている時に宿題をしなかったようなものです！ スワミが「すべてを愛し、すべてに奉仕しなさい」とおっしゃっているのに、自宅に戻り、家族の皆と口論になり、機会があっても他人を助けないなら・・・等々、スワミのもとに戻って更なるウパデーシャ（助言）を求めても何の役に立つのでしょうか？ 私たちが受け取った助言を実践するまでは、スワミが再び私たちに話しかけてくださることはないでしょう。

アートマ（真我）は私たちに英知の力と強さをもたらします。どの家族の中でも、私たちは優しい人をより愛し、冷淡な人をあまり愛さないでしょう。しかし、そのようなことをしてよいはずがありません！ スワミは「神の愛は無条件であり、人間の愛は条件付きである」とおっしゃっているのです。

「あなたはなぜ、他人がどうであるかについて悩むのですか？ あなたがどうであるかを気にかけなさい！ 私の恩寵が欲しいのなら、無条件の愛を培わなければなりません！ すべての人を平等に、無条件に愛しなさい」

善人であることは自分の霊的成長には役立ちますが、他人にとってはさほど役に立ちません。学校のクラスで良い成績を取っても、それは他者が良い成績を取る助けにはなりません。各自が自分自身のために努力しなければなりません。善い成績を取りたいと望むなら、自らが実践しなければなりません。

真の英知の実践

ある手紙の中でスワミは「バガヴァンとの交わり」についてお話しになっています。スワミはおっしゃっています。「あなたは常に私と話し続けていなければなりません」

あなたがスワミと絶えず話すことを習慣にし、あなたの内に純粹意識としてスワミの存在を体験すること、これが瞑想になるのです！ 純粹意識とは何でしょうか？ それは、身体そのものには大きな重要性はなくとも、身体は純粹意識であるアートマ（真我）を包んでいるものであるという英知の認識です。

かつて、スワミのパーダナマスカル（御足に平伏する礼拝）を大声で騒ぎ立てて請い、常にスワミの後を追いかけていた古い帰依者たちに、スワミはおっしゃいました。

「あなた方はなぜ、パーダナマスカルのために私の身体の後を追うのですか？ あなた方のハートの内で私を常に視覚化し（思い描き）、何度でもナマスカル（平伏）することができます。そこから得られる恩恵は、霊的意識の中で行うのですから、身体意識の中で行うよりも、その結果は絶大です」

なぜ、私たちはスワミの身体的な御姿を追うのでしょうか？ これ（スワミの身体の御姿を追う）を行うことで、私たち自身を身体に限定するだけでなく、スワミご自身をもスワミの身体（御姿）に限定してしまうのです！ これにはグニャーナ（英知）がありません！ 無知です。バクティ（信愛、帰依、神への愛）は、グニャーナ（英知）と手を携えて進まなければならないとスワミがおっしゃっているのはこのような理由からです。ディヤーナ（瞑想）は、グニャーナ（英知）とバクティ（信愛、帰依、神への愛）に続いて生じます。ディヤーナ、もしくは瞑想とは何でしょうか？ それは座禅のポーズ（姿勢）で座ることではありません。内へと深く入って行き、あなた自身の真我と完全に波長を合わせることです。それまでは、ディヤーナ（瞑想）にはなりえません。

それは瞑想ではなく、せいぜい黙想になりえるだけです。何年間ものサーダナ、すなわち霊性修行を経て、ディヤーナ（瞑想）が訪れます。スワミはおっしゃっています。「先ず、私の存在の中にいることを実践しなさい！」と。あなたのハートにおおすスワミと常に話をするなら、プッタパルティに行き、スワミとお話しするためにインタビューの機会を得る必要性がどこにあるのでしょうか？ スワミはあなたのマータ、ピタ、バンドウ、サカ（母、父、伴侶、友人）であり、あなたのすべてなのです。ですから、スワミにハートを開き、すべてを分かち合ってください。スワミがあなたの内おられるという確信

を培わなければなりません。

何日もダルシャンに行くことなく、私は実に多くの体験（内なるスワミとの対話）をしました。今は月に2、3度（ダルシャンに）行く程度です。私は身体的（物理的）にはスワミと話しませんし、スワミにお手紙を渡すこともありません。あなたがグニャーナ（英知）を受け取る際には、スワミがあなたの内で、多くの素晴らしい特別な方法で、あなたを助け、あなたに喜びを感じさせてくださいます。妹や私の場合、スワミは段階的に徐々に（内側から）教えてくださいました。初めの頃は、花々や樟脳や他の品々をお供えしていました。当時でさえ、スワミは私たちに最小限の本だけを読むように、とおっしゃいました。スワミはよくおっしゃったものでした。

「グルのウパデーシャ（助言）を伝える本やスワミの本は、あなたを助けるでしょう」スワミは適切なときに、あなたにメッセージを授けるスワミ独自の方法をお持ちです。スワミは本を通じてよくメッセージを授けられるのです。



最近では、私はどんな本も買いません。先日数冊の本が出版されましたが、それらは非常に有益で参考になります。少し例を挙げますと、『サイ ダルシャン』『サイコロジー』（※通常サイコロジーは psychology と綴りサイコロジューと読み心理学を意味するが、この本はあえて Saicology と綴り、サイの英知の学問を意味している）『サイ サンデーシュ』などです。『サイ サンデーシュ』は、ここ（プラシャーンティ・ニラヤム）の設立の意義を理解するために非常に役に立つ本です。著者はなぜプラシャーンティ・ニラヤムのアシュラムが設立されたか、それはどういうものなのかを解説しています。ある特定の個人や重要人物が、時折アシュラムで優遇されると、私たちの心はかき乱されます。

プラシャーンティ・ニラヤムで何が起こるかは、私たちが気に懸けることではありません。私たちは皆、それ（P.N.で何が起こるか）はスワミにお任せしなければなりません。スワミはおっしゃっています。

「あなたが自分の最善を尽すなら、それ以外のことは私が行います！」

スワミは私たちから非常に素晴らしいパフォーマンス（実演・実践）を期待されているのです。スワミはおっしゃいます。

「四分の三（3/4）は自己分析を行い、四分の一（1/4）はサーダナ（霊性修行）を行うべきです」

サーダナ（霊性修行）では、ジャパ（神の御名を繰り返し唱えること）、ディヤーナ（瞑想）、バジャン、読書、私は今日どのような行いをしたのだろうか（自分自身を振り返る）

自己内観ができます。私は自宅の戸口に援助を求めて来た人を助けたらどうか、あるいは追い返したらどうか？ 私はすべての人に優しく接したらどうか？ 私たちは自分の見解の相違を拭い去らなければなりません。アドワイタム（不二一元）は、ユニティー（一体性）以外の何ものでもありません。テロリストたちのためにさえも祈りなさい！

これは、霊的理解により一致（適合）することです。スワミはおっしゃっています。「あなた方は皆、この世というステージの上である役柄を演じています。自分が演じているとき、他の人がどのように演じているかに集中しますか？ あなたは自分の役をどのようにうまく演じるかに集中しなければなりません！ あなたがステージで演じるのはほんのわずかな時間です。どんな役であってもうまく演じなければなりません。しかし、あなたが演じる何らかの役柄とあなた自身を同一視すれば、あなたは失望するでしょう。自分の内で何が起きているかにのみ集中しなさい。外で起きている出来事については心配してはなりません」

サイの慈愛を信じる

スワミの遍在を生き生きと実証した出来事についてお話ししましょう。私の息子が8、9歳頃のことでした。私たちはナグプルに住んでいました。息子は大人用の自転車に乗る習慣がありました。息子はその自転車より小さなサイズの自転車を持っていたのですが、その小型の自転車を好んでいませんでした。ある日、息子は片手にフットボールを抱えながら大型（大人用）の自転車に乗って、友人たちと遊びにでかけました。

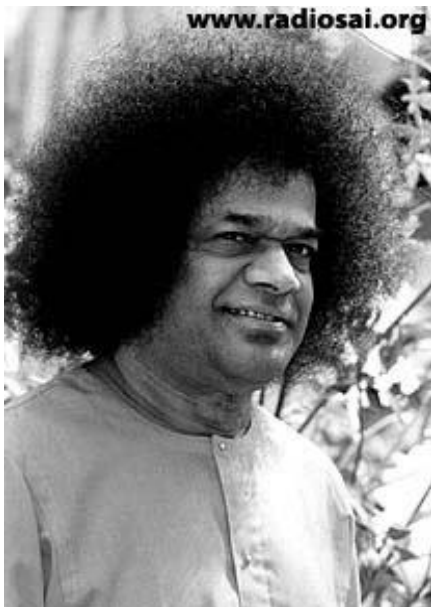
友人たちと遊んだ後、息子は帰宅の途中でした。息子はその自転車にきちんと座ってペダルに足が届くほどの身長はありませんでした。そこで、息子は自転車に立ったままペダルをこぎ、片手にフットボールを抱えてバランスをとっていました。そしてその後、息子は大きな排水溝の近くで、自転車のコントロールを失いました。

フットボールが息子の手から落ち、自転車の前にころがって（自転車と）ぶつかったため、自転車は息子の上にすさまじい音を立てて倒れてきました。息子は身体中を打撲し、泥まみれになりました。幸い、息子の骨はすべて無傷でした。彼らの遊んでいた友人宅からすぐ近い距離で、息子は自転車を押しながら帰宅しました。息子を見るなり、私はショックを受けて気が動転しました。

私はすぐさま医者を呼び、数時間後に医者が息子を診察するために到着しました。そのときまでに、息子は発熱していました。医者は、これ（息子の病）はすぐに処置をしなければ命取りになる「敗血症」かもしれないと言いました。医者は、一刻の猶予もなく薬を投与しなければならない、と忠告しました。

不幸にもそのとき、私の夫は遠方にいました。その医者、この町ではストライキがあり薬を手に入れることはできない、その医者の病院にもこの薬の在庫はない、と告げました。医者は、私が何とかしてできる限り早急にその薬を入手しなければならないと言いました。私はとっさに思いました。「この子をひとりで残して、どうして行くことなどできるでしょう？」 私はスワミに助けを祈りました。その後まもなく、看護大学に通っていた友人のマーダヴィが、用事があって家にやってきました。私は彼女を信用して息子を任せ、彼女に深く感謝し、家の召使いを連れて車に乗り込み、薬局に向かいました。しかし薬局は閉店しており、薬剤師もその辺りにはいませんでした。私は薬剤師の自宅まで行きましたが、そこにも（薬剤師は）いませんでした。

スワミは常に、あなたがどれほど根気強いかをテストされます！ スワミの助けは、あなたが最善を尽くした後、常にぎりぎりの土壇場で訪れます！



私はその薬剤師の自宅で妻のバネルジー夫人に会い、彼女の夫（薬剤師）がいつ戻って来るのか尋ねました。バネルジー氏は薬局がある同じビルの最上階でホテルを経営しており、管理の仕事のために出かけていて午後8時頃までには帰宅するだろうとのことでした。私は座ってスワミに祈っていました。そしてちょうど午後9時前、ある紳士がやって来て、バネルジー氏の妻に、彼女の夫が薬局の鍵を必要としていると告げました。

他の誰かが緊急に薬を必要としていたのです。バネルジー夫人は、自転車で到着したその紳士に鍵を渡しました。私は薬局まで自家用車でその人の後からついて行くと告げました。そしてバネルジー氏に会い、薬を売ってもらうことができたのです。それから急いで自宅に戻り、息子にその薬を投与しました。息子は何の合併症もなく、数日後に回復しました。

この出来事から数か月後、デリーに住んでいる私の妹のプラティーマが、スワミのダルシャンに与るためにプッタパーティに行こうとしていました。妹はプッタパーティに向かう前に、ナーグプルの私たちの家に数日間立ち寄りしました。後になって、私はプッタパーティで彼女に何が起こったかを知ることになりました。プラチャーンティ・ニラヤムに到着すると、スワミは妹を上階に呼ばれ、お尋ねになりました。

「ジャワーハル（ラニ マーの息子）はどうですか？ 彼は大丈夫ですか？」

妹はその質問に驚きました。妹は尋ねました。

「スワミ、なぜそのようなことをお尋ねになるのですか？」

スワミはおっしゃいました。

「知らないのですか？ 彼は最近、重大な事故に遭ったのです。ラニ マーはあなたに話してませんでしたか？」 妹は言いました。

「いいえ、スワミ！ 何が起こったのか私に話してください」
そうして、スワミは次のように妹にその事故の全容をお話になりました。

「彼は自転車に乗っていて転倒しました。彼は非常に深刻な頭の傷を受けました。しかし、ラニ マーが子供たちを守ってほしいと常に私に祈っていたので、そのように行う（子供たちを守る）ことが私の責務だったのです。私は彼がこの事故に遭ったことがわかり、すぐさま（彼の元に）行き、私の両腕に彼を抱えて、不慮の事故から救いました」

神との対話が瞑想

この出来事はスワミの遍在を証明しています。私がしていたこととは、どんなときも常にスワミと話し、スワミに私の子供たちを守ってくださるよう祈ったことでした。これが、「スワミと話をすることが瞑想です！」とスワミがおっしゃった際に意図されたことです。アンタルヤーミ（私たちの内在者）としてスワミ（神）と対話し、常にスワミ（神）の導きやご加護を祈ることが瞑想なのです。瞑想とは何でしょう？ それは、私たちのハートの内に神の存在を安置し、この世のことは忘れることです！ それは、一日中どのような活動を行っていても、私たちが実践するべきことを導いてくださるよう祈ることです。それは、常にスワミに懇願し続け、スワミの導きを求めることです。あなたが霊的に成長するに従って、あなたの内なる声は何をするべきかを導きます。

私はもはや灯火や樟脳、その他の道具によって礼拝することはありません。スワミがあなたを導かれます。スワミはあなたを救い、歌や本や誰かを通じてメッセージを送って来られます。先ほど私が紹介した3冊の本、『サイ サンデーシュ』『サイ ダルシャン』『サイコロジー』は、誰かが私の自宅に持って来てくれました。自分で買いに行ったわけではありません。これらの本は私にとって霊的に多大な助けとなりました。

あなたが常に「スワミ、私の行うことが何であれ、あなたを喜ばせることができますように、私が霊的に成長するよう助けてください」と祈り続けるなら、スワミは霊的にあなたを助けてくださいます。この次に紹介する歌は、スワミの学校で学んでいる孫娘から教わった歌です。

「ドウニャー ネ チャーダーイェ プール トウジェ クフド コー チャダーネ アイ フ」
(この世界はあなたに花を捧げました。

しかし、私はあなたに私自身を捧げるために来ました)

このディヴォーショナル・ソング（帰依の歌）の各節は、純粋なアドワイタ（不二一元）です。この歌を歌うとき、私は高められる感じがします。

ある年長の女性が、身体中が痛みで疼くことを話してくれました。彼女の痛み止めは

神について話すことだそうです。彼女が神の話をする、何の痛みも感じなくなるのです！それで彼女は常に神について話したがりです。このことは彼女がその段階に（霊的に）進化し、誠実であることを示しています。スワミはおっしゃいます。

「簡素で誠実でありなさい。あなたに可能な限りの最善を尽くしなさい。そして、私があなをどのように引き上げるかを見ていなさい！」

「私は彼らを失望させません！」ーババ

www.radiosai.org



娘と私は、孫たちをババの学校で学ばせることを熱望していました。家族の中では、他のだれよりも私がそのことを熱望していました。しかしながら、私の義理の息子（娘の夫）は孫たちをプッタパーティに送ることを望んでいませんでした。孫たちがプッタパーティで教育を受けると、この世の実生活に適応しなくなるのではないか、また彼らの人生の取り組みや理解が非常に難しいものになるのではないかと感じていたのです。それで彼（娘の夫）はスワミの学校に子供たちを送りたくなかったのです。彼らは私の孫たちではありませんが、義理の息子（子供の父親）の意志に反して無理に決断させることはできませんでした。そこで、私はスワミに祈ることに決めました。私はひとりでプッタパーティに行き、部屋を確保し、スワミの近くで孫たちが勉強するという幸運な機会が得られるように、スワミに40日間祈りました。

この後、私は娘に、再度彼女の夫に（孫たちのことを）尋ねるように言いました。娘が尋ねると、彼（義理の息子）は言いました。

「おそらくこれは善いことなのだろう。それ（子供たちがスワミの学校で学ぶことをやってみようじゃないか）」

彼の意見が変わっていたのです！

私の娘は、孫の入学試験の申請を進めました。孫息子のドゥルヴァは8年生（日本の中学2年生）、二人の孫娘は6年生と7年生で、バンガロールのバリー スクールで学んでいました。娘はドゥルヴァが受ける入学試験と面接のための受験票を受け取るという知らせを受けました。入学試験日の1か月前に、娘は言いました。

「アンマー（お母さん）、私はバンガロールにいなければならないので、ドゥルヴァをプッタパーティに連れて行って、英語と一般教養と他の教科の指導をしてください」

そこで、孫息子と私は受験日の1か月前にプッタパーティに到着しました。スワミは

私にサウス（南）ブロックの部屋を与えてくださいました。それは素晴らしい部屋で、とてもマンディールに近い部屋でした。

私たちはその部屋に落ち着きました。受験の数日前の午後 9 時頃でした。私たちが床に就こうとしていると、誰かがドアをノックしました。ドアを開けると彼は言いました。

「すぐに、あなたのお孫さんを寄こしてください。クトウンバ・ラーオ氏がお孫さんと話したいとのことです」

私はなぜクトウンバ・ラーオ氏（当時アシュラムの秘書担当）が私の孫息子と話したいのか不思議に思い、私も孫に付き添いたいと申し出ました。しかし、クトウンバ・ラーオ氏はドゥルヴァ（孫息子）だけが来ることを望んでいる、と相手は主張しました。私は孫をその紳士と一緒に行かせました。孫が戻って来るとすぐさま、私はクトウンバ・ラーオ氏と孫が何を話したのか、すべてを教えるように言いました。ドゥルヴァ（孫息子）は、クトウンバ・ラーオ氏があらゆる質問をしたことを話してくれました。

試験日の前日、私たちはまだ（入学試験と面接のための）受験票を受け取っていませんでした！ 心配になった私は娘に確かめましたが、娘も受験票を受け取っていないと言いました。その日（受験前日）に私は（ダルシャンで）一列目に座っていました。そしてスワミが近づいて来られた際に、スワミにお尋ねしました。

「スワミ、あなたはドゥルヴァの入学を許可してくださいました。しかし、私たちは受験票を受け取っておりません。どうすれば孫は試験を受けられるのでしょうか？」

スワミはおっしゃいました。

「受験票がないのですか？ 受験票のことは心配なくてよろしい！ 受験票がなくても彼を受験に行かせなさい」 私はしつこく言いました。

「スワミ、でも面倒なことになります！ 受験票がなければ追い出されてしまいます」 スワミはおっしゃいました。

「私はあなたに言いませんでしたか？ その件は私が面倒をみますと。彼を行かせて、試験を受けさせなさい」

次の朝、私は受験票がないまま孫息子を入学試験に行かせました。誰も孫を止める者はいませんでした。孫の名前を聞いた瞬間、孫を通してくれたのです。最終的に、孫はハップ校長のところに行きました。校長は孫を招き入れてくださいました。孫は試験を受け、入学を許可されたのです！

私は何が起こったのかを後から知りました。ハップ校長夫人は私の義理の娘の友人で、長年プッタパーティに住んでいます。ハップ校長夫人は彼女（義理の娘）を訪問して、私たち家族がどれほど幸運であるかを話してくださいました！ そして何が起こったかをここでお話しします。スワミは個人的に（直々に）、自家用車で学校に行かれ、ハップ校におっしゃいました。

「明日、ドゥルヴァ・スッパヤ（ラニ マーの孫息子）が受験票なしで入学試験のた

めに到着します。彼を入学させなさい。試験に合格しようと落ちようと、彼を入学させなければなりません！ なぜだかわかりますか？ この家族は私と非常に親密な関係にあるので、私は彼らのためにこれをしなくてはならないのです。彼らを失望させることはできないのです！」

バガヴァンと常に話をすることが、どれほど大切なことかわかりますか！ 私は受験票を受け取らなかったというだけで、引き返すことはありませんでした。信仰が何を成し得るかわかりますか？ スワミの慈愛をご覧ください！ スワミ自らが、このひとりの生徒のために学校へ行ってくださったのです！ シーマ・デーワン女史によって書かれた本、『サイ ダルシャン』の中に、スワミの慈愛を受け取るためにスワミが定められた条件が記されています。それは有益で靈感を与える本です。それは私たちがスワミから最大限の恩寵を受け取るために、私たちが何をしなければならないかを説いています。スワミが定められた条件に合うことは非常に難しいことです。しかし、あなたがこれらの条件を満たしていれば、スワミは常にあなたの面倒をみてくださるでしょう！ あなたは 24 時間、1 週間（絶え間なく）スワミのご加護を受けるでしょう！ これは直接的で確実なスワミご自身からの約束です！ 本を読むだけでは充分ではありません。それ（本に記されたこと）を実践に移し、これらの条件に沿って生きることによって、私たちはスワミの恩寵を得るのです。

第 8 部へ続く・・・

出典：http://media.radiosai.org/journals/Vol_06/01OCT08/14-h2h_special.htm